

●海軍艦船條例

明治二十九年三月二十九日(勅令)

改正 明治三十年十月四〇二號、三十一年十一月三五號、三十三年六月二
二七四號、九月三八四號、三十八年一月一六號、十二月二五八號、大正
五年五月軍令海六號廢止

海軍艦船條例

第一條 艦船ハ鎮守府ヲ本籍トス

第二條 艦船艦隊ニ編入セラレ或ハ他ニ附屬スルトキハ各其ノ長官ニ屬スト雖本籍ヲ變セス解役解隊若クハ所屬ヲ免セラシルトキハ別ニ命令ナクシテ本籍ニ復歸ス

第三條 艦船ヲ左ノ四種ニ別ツ

第一種軍艦

第二種軍艦

水雷艇

雜役船舟

第一種軍艦トハ戦闘ノ役務ニ堪フル軍艦ヲ謂フ

第二種軍艦トハ戦闘ノ役務ニ堪ヘサルモ常務ヲ帶ヒ航行シ得ル軍艦ヲ謂フ

水雷艇トハ魚形水雷使用ノ主旨ニ從ヒ特種ノ構造ヲ有シ戦闘ノ役務ニ堪フル艇ヲ謂フ

雜役船舟トハ軍艦水雷艇及之ニ裝置セル小蒸汽船、端舟ヲ除クノ外總テ他ノ船舶艇ヲ謂フ

第四條 軍艦艦隊ニ編入セラレ又ハ整備練習測量其ノ他特別ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦ト稱シ其ノ他ハ之ヲ豫備艦ト稱ス但製造中ノモノハ未成艦ト稱ス

第五條 在役艦ニ左ノ職員ヲ置ク

艦長

海軍大佐若クハ少佐若クハ大尉

副長

海軍少佐若クハ大尉

航海長

海軍少佐若クハ大尉

砲術長

海軍少佐若クハ大尉

水雷長

海軍大尉

機關長

海軍機關大監若クハ機關少監若クハ大機關士

分隊長

海軍大尉及大機關士

軍醫長

海軍軍醫少監若クハ大軍醫

主計長

海軍主計少監若クハ大主計

前項ノ外海軍少尉、少機關士、大軍醫、少軍醫、大主計及少主計ヲ置ク

本條ノ職員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應シ其ノ一部ヲ置カサルコトアルヘシ

練習測量其ノ他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲クル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトヲ得

第六條 艦長ハ所管長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ艦ノ保安ニ任シ艦務ヲ總理ス

第七條 艦長ハ部下ノ職員事故アルトキ若クハ缺員中ハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條 艦長ハ所在諸艦ノ先任艦長タルトキハ其ノ諸艦ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但將旗代將旒現在スルトキハ此ノ限ニアラス

第九條 艦長ハ砲術長、水雷長、若クハ其ノ一ヲ置カサル艦ニ在テハ大尉タル分隊長若クハ水雷長、或ハ砲術長ヲシテ該職務ヲ執ラシムルコトヲ得

第十條 艦長ハ第三十一條ニ掲クル諸員ニ臨時職務ヲ命スルコトヲ得

第十一條 副長ハ艦長ヲ輔佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦内ノ定則ヲ維持ス

第十二條 航海長ハ艦長ノ命ヲ承ケ航路及水路嚮導ニ關スル事ヲ掌リ主管ノ器具物品ヲ整頓シ艙内貯積ノ方法ヲ監掌ス

第十三條 砲術長ハ艦長ノ命ヲ承ケ主管ノ兵備ヲ整頓シ砲術ノ教授ヲ監掌ス

第十四條 水雷長ハ艦長ノ命ヲ承ケ主管ノ兵備ヲ整頓シ水雷術

ノ教授ヲ監掌ス
第十五條 大尉タル分隊長ハ艦長ノ命ヲ承ケ各部署ノ長ト爲リ
隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓シ又教育訓練ニ
關スル事ヲ掌ル

第十六條 航海長、砲術長、水雷長及大尉タル分隊長ハ交番當
直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ當直士官ト稱シ艦長ノ命ヲ
承ケ艦務ヲ處理ス但時宜ニ依リ艦長ハ副長ヲシテ當直ノ勤務
ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 少尉ハ艦長ノ指定ニ依リ副長、航海長、砲術長、水
雷長若クハ大尉タル分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス
第十八條 少尉ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ副直
士官ト稱シ當直士官ノ命ヲ承ケ服務ス但時宜ニ依リ艦長ハ之
ニ當直士官ノ勤務ヲナサシムルコトヲ得

第十九條 機關長ハ艦長ノ命ヲ承ケ部下ノ紀律ヲ維持シ又教育
訓練ニ任シ機關及艦體ニ關スル事ヲ掌ル
第二十條 大機關士タル分隊長ハ艦長ノ指定ニ依リ機關長ノ命
ヲ承ケ各部署ノ長トナリ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ諸機械ヲ
整頓シ又教育訓練ニ關スル事ヲ掌ル

第二十一條 大機關士タル分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ
場合ニ於テハ當直機關士ト稱シ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス但時
宜ニ依リ艦長ハ機關長ヲシテ當直ノ勤務ニ服セシムルコトヲ
得

第二十二條 少機關士ハ艦長ノ指定ニ依リ機關長若クハ大機關
士タル分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十三條 少機關士ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テ
ハ副直機關士ト稱シ當直機關士ノ命ヲ受ケ服務ス但時宜ニ依
リ艦長ハ之ニ當直機關士ノ勤務ヲナサシムルコトヲ得

第二十四條 軍醫長ハ艦長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌
ル
第二十五條 第五條第二項ニ掲クル大軍醫及少軍醫ハ軍醫長ノ
命ヲ承ケ服務ス

第二十六條 主計長ハ艦長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌
リ及庶務ヲ掌理ス
第二十七條 第五條第二項ニ掲クル大主計及少主計ハ主計長ノ
命ヲ承ケ服務ス

第二十八條 艦長缺員中ハ副長其ノ職務ヲ執リ艦長事故アルト
キハ副長其職務ヲ代理ス
第二十九條 副長事故アルトキハ次席將校其ノ職務ヲ代理シ副
長缺員中若クハ副長ヲ置カサル艦ニ在テハ艦長次席ノ將校其
ノ職務ヲ執行ス

第三十條 在役艦ニハ第五條ニ掲クル職員ノ外海軍准士官下士
卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
第三十一條 在役艦ニハ前諸條ニ掲クル職員ノ外練習若クハ實
地研究ノ爲メ海軍士官准士官下士卒ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三十二條 前條ノ諸員ハ第十條ニ依リ命セラレタル職務ニ付
テハ其責ニ任スヘシ
第三十三條 豫備艦ハ通常軍港ニ繫留シ第五條第三十條及第三
十一條ニ掲クル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

第三十四條 水雷艇役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艇ト稱シ其ノ
他ハ之ヲ豫備艇ト稱ス但製造中ノモノハ未成艇ト稱ス
第三十五條 在役艇ニハ水雷團水雷艇隊ノ職員中艇長以下ヲ置
ク其ノ職務ニ關シテハ水雷團條例ヲ適用ス但水雷艇隊ニ編入
セサル水雷艇ニ在テハ水雷艇隊司令ノ職權ハ直屬長官之ヲ行

フ

第三十六條 豫備艇ハ通常軍港若クハ要港ニ繫留シ水雷團若クハ要港部ニ屬セシメ第三十五條ニ掲クル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

第三十七條 艦團部等ニ附屬スル艦船ニ在テハ乗組先任將校艦船一切ノ命令ヲ掌リ其ノ保安ニ任シ其ノ他ノ乗員ハ先任將校ノ命ヲ承ケ服務ス

附則

第三十八條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第三十九條 明治二十二年勅令第九十九號軍艦條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十年十月二十八日(勅令四〇三)

海軍艦船條例中左ノ通改正ス

第五條 在役艦ニ左ノ職員ヲ置ク

艦長

副長

航海長

砲術長

水雷長

機關長

分隊長

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍中尉、少尉、中機關士、少機關士、軍醫官及主計ヲ置ク

本條ノ職員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應シ其ノ一部ヲ置カサルコトアルヘシ

練習測量其ノ他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲クル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトヲ得

第九條、第十五條、第十六條及第十七條中「大尉タル分隊長」ヲ「將校分隊長」ニ改ム

第十七條及第十八條中「少尉」ヲ「中尉及少尉」ニ改ム

第十九條中「及艦體」ヲ「船體及兵器」ニ改ム

第二十條、第二十一條及第二十二條中「大機關士タル分隊長」ヲ「機關官分隊長」ニ改ム

第二十二條及第二十三條中「少機關士」ヲ「中機關士及少機關士」ニ改ム

第二十五條中「大軍醫及少軍醫」ヲ「軍醫官」ニ改ム

第二十七條中「大主計及少主計」ヲ「主計」ニ改ム

第三十條中「海軍」ノ下ニ「兵曹長及同相當官」ノ八字ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十一年十一月二十九日(勅令三三五)

海軍艦船條例中左ノ通改正ス

第十六條中「當直士官」ヲ「當直將校」ニ改ム

第十八條中「副直士官」ヲ「副直將校」ニ「當直士官」ヲ「當直將校」ニ改ム

第二十一條中「當直機關士」ヲ「當直機關官」ニ改ム

第二十三條中「副直機關士」ヲ「副直機關官」ニ「當直機關士」ヲ「當直機關官」ニ改ム

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

未成艦ニハ必要ニ應シ第五條及第三十條ニ掲クル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

ニ置クコトヲ得

第三十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

未成艇ニハ必要ニ應シ第三十五條ニ掲タル諸員ヲ適宜ニ置ク
コトヲ得

明治三十三年六月二十一日(勅令二七四)

海軍艦船條例第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第三十三條ノ二 軍醫官ヲ置カサル軍艦ニハ直屬府部隊等ノ長
官部下相當職員ヲ指定シテ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ又必要ト
認ムルトキハ部下相當職員ヲ之ニ乗組マシムルコトヲ得

明治三十三年九月二十七日(勅令三八四)

海軍艦船條例中左ノ通改正ス

第八條 艦長ハ所在驅逐隊ノ司令ヨリ上席ニシテ所在諸艦ノ艦
長中ノ首席者ナルトキハ其ノ驅逐隊並諸艦ヲ指揮スルノ權ヲ
有ス但シ司令長官司令官現在スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 艦長缺員中又ハ事故アルトキハ副長其ノ職務ヲ代
理ス

前項ノ場合ニ於テ副長缺員中若ハ其ノ定員ヲ置カサルトキ又
ハ事故アルトキハ他ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ艦長ノ職務ヲ代
理ス

前二項ノ規定ハ特ニ代理者ヲ置キタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 副長缺員中又ハ事故アルトキハ艦長ニ非サル他ノ
將校席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル
場合ハ此ノ限ニ在ラス

副長ヲ置カサル艦ニ在リテハ艦長ニ非サル他ノ將校席次ノ順
序ニ從ヒ其ノ職務ヲ執行ス

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ場合ニ於テ艦長ヲ置カサル艦ニ在リテハ第二十八條
ノ規定ニ準シ副長又ハ其ノ他ノ將校其ノ職務ヲ執行ス

明治三十八年一月十二日(勅令一六)

海軍艦船條例中左ノ通改正ス

第三十五條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ潜水艇ノ乗員及其ノ職務等ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム又水
雷艇隊ニ編入セサル水雷艇ニ在リテハ水雷艇隊司令ノ職權ハ
直屬長官之ヲ行フ

第三十六條中「水雷團若クハ要港部ニ屬セシメ」ヲ削ル

明治三十八年十二月十一日(勅令二五八)

海軍艦船條例中左ノ通改正ス

第三條 艦船ノ種別左ノ如シ

軍艦

驅逐艦

水雷艇

潜水艇

運送船

病院船

工作船

雜役船舟

第五條第二項及第二十七條中「主計」ヲ「主計官」ニ改ム

第六條中「所管」ヲ「所屬」ニ改ム

第六條ノ二 艦長ハ本邦ニ於ケル島嶼等隔絶シタル地方ニ在ル
トキ急劇ノ事變アリ鎮定ノ爲兵力ヲ用フルヲ必要ト認ムル場
合ニ於テハ地方官ト合議シ便宜事ニ從フコトヲ得此ノ場合ニ

於テハ事後速ニ海軍大臣及所屬長官ニ報告スヘシ

第三十三條ノ三 驅逐艦役務ニ服スルトキハ之ヲ在役驅逐艦ト稱シ其ノ他ハ之ヲ豫備驅逐艦ト稱ス但シ製造中ノモノハ未成驅逐艦ト稱ス

第三十四條中「水雷艇」ノ下ニ「潜水艇」ヲ加フ

第三十五條 在役驅逐艦ニハ驅逐艦長及尉官ヲ置キ在役艇ニハ艇長及尉官ヲ置ク

在役驅逐艦及在役艇ニハ又必要ニ應シ機關士ヲ置ク

驅逐艦長、艇長ハ各直屬長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ整頓シ艦艇ノ保安ニ任シ其ノ事務ヲ總理ス尉官及機關士ハ驅逐艦長若ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス

在役驅逐艦、在役艇ニハ前項ノ外海軍兵曹長同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第三十五條ノ二 豫備驅逐艦ハ通常軍港若ハ要港ニ繫留シ第三十五條ニ掲クル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

未成驅逐艦ニハ必要ニ應シ第三十五條ニ掲クル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

第三十七條 運送船病院船工作船及雜役船舟ニハ艦艇ニ準シ適宜乗員ヲ置クコトヲ得但シ戰時特設船舶ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十七條ノ二 臨時乗員ヲ置キタル艦船ニ在テハ乗組首席將校艦船一切ノ命令ヲ掌リ其ノ保安ニ任シ其ノ他ノ乗員ハ首席將校ノ命ヲ承ケ服務ス